

「懇話会における検証の考え方」についての委員意見（まとめ）

（阪堺線の存続の検証について）

- ・「阪堺線の存続」を目的とする支援の検証について、原案通りの直接的評価による検証で良いと考える。
- ・10年後の事業像、10年間の目標値、堺市としての投資計画の策定、各年度末の目標達成状況を評価、確認し、次年度計画にローリングする仕組みが必要。（PDCAサイクル）
- ・阪堺電気軌道（株）の営業努力が見られない。（もっと目に見える形で示すべき）

（堺市のまちづくりへの寄与の検証について）

- ・まちづくりプランが、まだ具体的に描かれていない。

阪堺線の再生・活性化に向けての検証の考え方は、沿線まちづくりプランをつくり、それにおける具体的な目標を定めた上で、その達成度を検証する、ということが望ましい。

沿線まちづくりプランは、堺市だけではなく、大阪市をいかにまきこむことができるか、大阪市にとってもメリットがあるような具体的なアイデアを出しつつ、検討すべき。

- ・アイデアを利活用できる中心軸となる大きな沿線（これは阪堺のみでなく、阪堺とネットワークを組める他の公共交通機関も含めた）まちづくりプランを考える。その為には、沿線をくまなく歩きイメージをキャッチし、ビジョンを描ける人材が必要。人間行動学的・動態型の検証をする。検証しつつ常に動く。そういうふうになることが重要。
- ・まちづくりプランは、住民を中心にすえて発想することが重要。まちづくりは住民から、それが今日の経営の常識。
- ・「堺市のまちづくりへの寄与」については、阪堺線への直接的な投資以上に、堺市の阪堺沿線活性化、中心市街地活性化への施策が大きく影響する。阪堺線が存続しただけで堺の街が自然に活性化することはあり得ず、あくまで、ハードの一つの充実にすぎない。他の強力なハード作りとこれらを含めたソフトの開発なしに堺の街は甦らない。

「堺市のまちづくりへの寄与」の検証は、これらと他の施策とのセットで行うべしと考える。検証よりまずは他の施策の提案が重要と考える。

（懇話会での検証の進め方について）

- ・継続的に効果検証や活性化に向けた意見交換を行っていくべき。
- ・支援策の検証は、今後、阪堺線を市内の公共交通体系のなかでどのように生かしていくかの課題と深くかかわっているため、公共交通検討会議（青山座長）と連携、共同開催していく必要がある。
- ・検証にあたっては、可能な限り「現場主義」に徹するべきであり、懇話会においても委員が現場に出向いて問題点や課題の抽出を行う必要がある。